



日前大神・國懸大神をお祀りする日前・國懸神宮。鳥居からまっすぐ続く参道の突き当たりを左に行けば日前神宮、右に行けば國懸神宮が鎮座している。社殿の形や配置は鏡に映したようにそっくりに造られている。

和歌山県

和歌山電鐵

貴志川線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA



連載 第6回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか

神話と特産と猫の 短くも長い鉄路の話

神話の舞台という出雲や日向地方が多い起こされがちな、和歌山市付近にも多くの神話の舞台がある。

たとえば、天照大神が天の岩窟に隠れてしまった時、誘い出すために鏡が鑄造されたが、そのうちの2枚が神武天皇によって畿内にもたらされ、この地で祀るよう紀伊国造に命じたという。また、神武天皇の兄、彦五瀬命は天下の平定を目前にして戦死し、竈山に葬られたと伝えられる。一方、須佐之男命が天上からもたらした木々の種を日本国中にまくことを命じられた五十猛命は、仕事を終えて今の伊太祈曽に鎮まったとされる。

これらの神話を由緒とする日前・國懸神宮、竈山神社、伊太祈曽神社は西国三社と称され、古くから正月などにこの三社をめぐる西国三社参りの風習があった。その参詣者の輸送を目的に、大正5（1916）年に設立されたのが和歌山電鐵貴志川線の前身、山東輕便鉄道である。

当初の路線は今の和歌山駅の南西にあった大橋駅を起点として、山東駅（今の山東駅ではなく、伊太祈曽駅のこと）までの8.1km。小ぶりのかわいい蒸気機関車が運んでいたのは参詣客だけでなく、山東付近のタケノコなどの産物もあり、大橋駅から船に移され各地に出荷されていた。



一つの境内に日前神宮と国懸神宮の二社が鎮座する珍しい神社。日前宮とも呼ばれる。ともに三種の神器の一つである八咫の鏡とともに造られた神鏡を御神体としており、古くから朝廷の崇敬を受けてきた。紀伊国の一宮。



ヤマトノオロチ退治で知られる須佐之男命の御子神、五十猛命・大屋津比売命・都麻津比売命を祀る。この三柱の兄妹神は日本国中に木の種を撒いたと伝えられ、まさに木の国（紀の国）和歌山を象徴する古社といえる。紀伊国の一宮。

かみやまじんじや 竈山神社



神武天皇の兄、彦五瀬命は神武天皇とともに天下平定の遠征を行っていたが長髄彦との戦いで負傷がもとで薨去、竈山に葬られたという。竈山神社はその神霊を祀る神社で、御陵（墓）の隣に鎮座している。

いちご電車。貴志駅周辺の特産品いちごをモチーフとした電車。和歌山電鉄初のリニューアルデザイン列車で、平成18（2006）年に登場した。翌年にはおもちゃ電車、平成21（2009）年にはたま電車（右ページの写真）もデビューした。



■和歌山電鐵（貴志川線）路線図



貴志駅の開業は昭和8（1933）年。和歌山鉄道（貴志川線）の終着駅として有人駅であったが、和歌山電鉄移管を機に無人化された。代わって登用されたのが猫駅長たま。ホームにはその霊を祭るたま神社があり、たま大明神として鉄路を見守っている。



たまは南海電気鉄道時代から貴志駅に隣接する商店で飼われていた猫で、当時から駅を利用する人たちの人気を集めていた。駅長就任以降、全国からファンがやって来るようになり、社内での肩書きも上がっていった。猫ブームの先鞭をつけたことでも注目される。

貴志駅



平成22（2010）年に竣工した貴志駅舎。猫の顔をモチーフとした檜皮葺の屋根が特徴。カフェやたまグッズの売店、資料展示コーナーも併設、「たまミュージアム貴志駅」とも呼ばれる。デザイン：水戸岡鋭治

和歌山電鐵株式会社

Wakayama Electric Railway Co Ltd.

設立 平成17（2005）年6月27日

貴志川線 和歌山-貴志（14.3km）

<https://www.wakayama-dentetsu.co.jp/>

こうした状況を受けて南海電気鉄道は貴志川線からの撤退を検討することとなり、これを知った地元の人々の間から存続の道を模索する運動が起こった。

県と市、旧貴志川町が支援を決め、後継事業者の公募により選ばれた岡山電気軌道が事業を継承、平成17（2005）年に和歌山電鐵が設立された。

和歌山電鐵はいちご電車を走らせるなど、さまざまなアイデアで乗客の増加を図ったが、中でも一大ブームを起こしたのが猫駅長たまであった。猫を要職につけるという当時としては斬新な発想は広くマスコミに取り上げられ、和歌山電鐵の名を一気に全国に広めることとなった。

大正13（1924）年の紀勢西線開業を機に起点を東和歌山駅（今の和歌山駅）とした。昭和6（1931）年には社名を和歌山鉄道に変更、同8（1933）年には貴志駅まで延伸された。西国三社参りは依然盛んで、大晦日には終夜運転もされていた。

昭和32（1957）年には和歌山電気軌道と合併して貴志川線として同社の鉄道路線となり、さらに昭和36（1961）年には南海電気鉄道に合併され、その路線網に加わることとなった。高度経済成長期と重なったこともあって乗客は右肩上がりに増え、朝の通勤通学時には駅員が乗客を満員の車内に押し込むこともあったという。

しかし、自動車の普及により乗客は減少に転じ、和歌山市内の道路整備が進んだことがこれに拍車をかけた。

しぶやのぶひろ

1960年、早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。『カラー版 神社に秘められた日本書紀の謎』（宝島社）、『聖地鉄道めぐり』（G.B.）、『眠れなくなるほど面白い 図解 神社』（日本文芸社）、『諸国神社 一宮・二宮・三宮』（山川出版社）ほか著書多数。